



# 仕事と生活の両立に向けて

社員一人ひとりが“やりがいのある仕事”と“充実した生活”を両立できるように、各種制度を改善するとともに、制度を利用しやすい環境づくりに努めています。

## ワークライフバランスセミナーの実施

働きやすい環境をめざし、2006年度は「社員のコミュニケーション」と「男性の育児参加」をテーマにセミナーを開催しました。また、当日参加できなかった社員のために、セミナーの内容を日本ユニシスグループ向けのイントラネットで紹介しました。

### 「男性脳と女性脳、まったく違う2つの感性 ～強く美しいビジネススタイルを創るために～」

感性分析の第一人者であり、脳科学者でもある黒川伊保子さんを講師にお招きし、コミュニケーションのコツを学びました。セミナーを通じて、性によって脳の形状や機能、ものの見方や感じ方、考え方、



黒川講師

好みが違うこと、それを理解することで、互いにより分かり合えることなどを学びました。例えば、会議中などに、コミュニケーションにおいてズレが生じるのは、実は男女の脳の構造の違いによるものだった、など新鮮で衝撃的なお話でした。専門的な内容にもかかわらず、黒川さんの分かりやすくユーモア溢れる解説に、笑いが絶えないセミナーとなりました。多くの社員が、身に覚えのある場面を思い浮かべ、納得したように



聞きいていました。会社や家庭のいろいろな場面で、「このセミナーが役に立った」と実感できると思います。

### 「子育ては男のロマン」

男性の育児参加を推進するセミナーを開催しました。講師の尾島和雄さん(日経キッズプラス編集長)はご自身が育児に積極的に関わることで、仕事人間だった頃とはまったく違う人生観を見出し、子育てから得られる多くのことを熱く語ってくださいました。日



尾島講師

本ユニシスグループでも育児休職を取得する男性社員が増えつつあります。今回は、そんなお父さん社員である友枝研さんと早川雄志さんによる育児休職体験談も発表されました。父親が子供に与える影響や子供から教えられることなど、父親が育児に参加することの大切さを二人とも熱心に語っていたのが印象的でした。これから育児休職を取得したいと考えている男性社員にとって、先輩の心強いアドバイスを聞く良い機会になったと思います。また、セミナーに参加した初井社長からも「会社の制度なのだから遠慮せず、堂々と利用してください」とのメッセージがありました。



日本ユニシス  
友枝 研



日本ユニシス・  
エクセリューションズ  
早川 雄志

### VOICE セミナー参加者の声

- 楽しく受講しました。仕事や育児に活かしていきたいと思えます。
- 企画会議に女性にも参加してもらいたいと思っていたので、大変参考になりました。
- 男性脳の仕組みを分かりやすく説明していただき、今まで抱いていた不満がこれで解消されると思いました。
- 男女の違いや女性の活用という観点に着眼させられ、たいへん有意義でした。
- これまで理解できなかった夫の言動が理解できたような気がします。時代にも女性脳、男性脳の傾向があるなど、内容に非常に興味を持ってました。これからの女性脳時代に気持ち良く仕事をしていきたいです。

### VOICE セミナー参加者の声

- 尾島さんの話は非常に共感もてました。とくに「好き」と「理屈」の話は素晴らしかったです。
- お話をくださった方々が、「育児休職!」と肩肘を張るのではなく、あくまで自然体で家族や仕事と向かっていらっやるのが印象的でした。
- 私も育児休職を取得したいと思いました。
- 自社にもこんなに子育てに熱心なお父さんがいるのかと思うと嬉しくなりました。私が育児休職中に体験したことと同じことを、男性も感じるのだなと思いました。



## 仕事と生活の両立に向けて

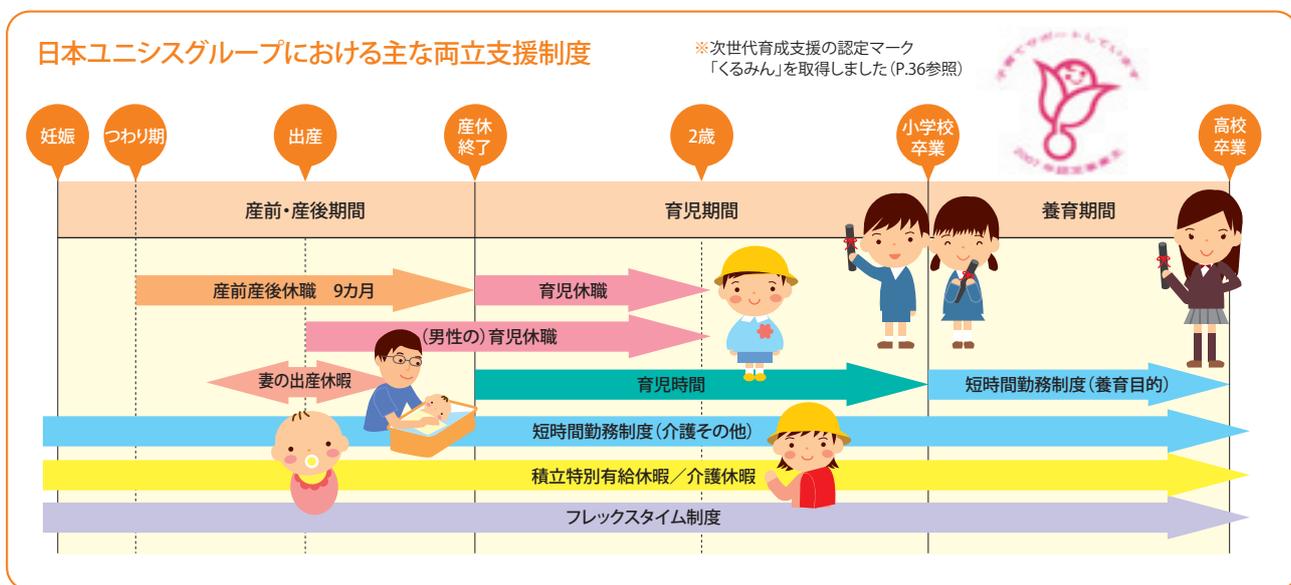
### 2006年9月「両立支援制度」を大幅に改定

従来の支援制度をさらに利用しやすく、また社員が働きやすくなるように見直しました。具体的には①休職期間の延長（産休9カ月、育休2歳）、②産休・育休の分割取得可能、③育児休職取得の除外要件（家で妻が子を養育する場合など）の解除、④育児時間取得期間の延長（小学校卒業まで）、⑤短時間勤務制度の新設（養育目的では子供が高校卒業まで）、⑥介護

休暇の延長（12日）および対象範囲の拡大、⑦積立特別有給休暇の利用条件緩和などを行いました。

また、業務の効率化およびワークライフバランスをめざした多様な働き方の一つとして、在宅勤務を試行しています。

ここでは主な両立支援制度と、制度を利用した社員の声をご紹介します。



#### 時間と気持ちのゆとりが持てるように——「育児時間」

これまで、夫の両親に子供を幼稚園に迎えに行ってもらい、その後の時間も面倒を見てもらっていました。育児時間制度の適用上限が、3歳から小学6年生まで広がったので、早めに帰宅することができ、子供とのコミュニケーションの時間が増えました。私自身、気持ちのうえでもゆとりができました。取得することに対して同僚たちも快く受け入れてくれ、とくに上司が良く理解してくれているので、会議中でも、帰宅時間になると声を掛けてくれたりと、その心遣いに感謝しており、仕事へのモチベーションも上がりました。



日本ユニシス  
SW&サービス本部  
CRMソリューション統括プロジェクト  
齊藤 博美

#### 子供が病気の時にそばにいられる制度——「介護休暇」

これまで、子供が突然病気になった時には、年次有給休暇を使うしかありませんでしたので、自分の体調が悪い時でも、「有給休暇は子供のために残しておかなきゃ」と思っていました。新しい制度になって、子供への介護休暇が増えて助かっています。私がどうしても休めない時には、これまでは私の両親に子供を見てもらっていましたが、子供は体調が良くない時はとくに、親に甘えたいものです。少しでも子供のそばにいてあげられる時間が増えて良かったと思っています。部署内には私の他にも両立支援制度を利用している人がいるので、取りやすい雰囲気もあり、大変ありがたく思っています。



日本ユニシス  
サービスインダストリー事業部  
叶内 祥子

### 社内で初めての男性育休取得者として―「育休退職」

もともと「育児は大変だから、妻をサポートしたい」という漠然とした思いをもっていました。一人目の時には、妻の産休明け後(生後2カ月)にリフレッシュ休暇を使って、育児に参加しました。二人目の時には、妻の仕事の都合もあり、大変さが予想されたので、1カ月の育休退職を取得することにしました。男性の取得は、ユニアデックスでは私が初めてでしたが、周囲の理解もあり、問題なく取得できましたし、職場の方々には本当に感謝しています。

また、退職中も電子メールで連絡をもらっていたので、職場復帰にも違和感はありませんでした。仕事の内容も退職前とまったく変わっていません。

現在、子供はまだ小さい(3歳と1歳)こともあって、急な病気の時の対応が大変です。「在宅勤務制度」を短期的にも使えるようになるとうれしいと思います。



ユニアデックス  
中部システムサービス統括部  
オープンシステムサービス部  
加藤 功一

### 最大の収穫は、ともに子育てをする実感―「育休退職」

我が家は親のサポートが望めない状況での初産でしたので、不安を感じていました。ちょうどそんな折に両立支援制度が改定され、専業主婦のいる家庭や、共働きで妻が産後・育休退職期間中でも男性が育休退職を取れるようになったので、本当に助かりました。取得に関しては、周囲はみんな協力的で、感謝の一言に尽きます。

退職期間中は子供の服の洗濯、食事の用意、哺乳瓶の洗浄、部屋の掃除、子供のお風呂などと家事だけで精一杯、自分でもよくやったと思います。

退職期間が終了し、妻に感想を聞いたところ、私が育休退職を取得しなければこの2カ月は乗り切れなかったという言葉ももらいました。私にとっては、夫婦二人で子供を育てていることを実感できたことが、一番の収穫だったと思います。



USOL東京  
金融基盤システムプロジェクト  
尾崎 卓爾

### 通勤時間を有効活用―「在宅勤務」

通勤時間が往復3時間もかかるので、それを有効活用したいと、試行に参加しました。週に1日程度のペースですが、朝はバタバタせずに子供を見送って部屋に掃除機をかけてから仕事を開始でき、終業までしっかりと働いても保育園の迎えの時間に十分間に合います。時間に余裕がある、すなわち、気持ちに余裕ができるということで、仕事へのモチベーションが上がりました。

その場にいれば直接話してすぐに済むようなことでも電子メールでの確認が必要になり、思わぬ時間がかかったりということはありますが、同部署の方々には「別フロアにいるつもりで」と協力していただき、気持ちよく利用させていただいています。自分の姿が会社から見えないだけに、その日の業務成果をより明確に残そうと心掛けています。



日本ユニシス  
SW&サービス本部  
プロジェクトマネジメント室  
森田 さちよ

### 試行してみても分かったこと―「在宅勤務」

以前からテレワーク(在宅勤務)に興味があったので、ぜひ実験台になってみたいと手を挙げました。また、仕事と家庭と社会(地域)のバランスがとれた生活をしたかったということもあります。通勤時間が減り、家事や子供の相手をする時間が増え、気持ちに余裕ができました。会社から離れて仕事をしていますが、会社の一員であるという気持ちはより高まったと感じています。しかし、電子メール主体の仕事をしていると、ふと孤独を感じることもあります。会社内であれば周囲の人に聞けるちょっとしたことでも、在宅勤務だと自分で何とかしなければなりませんので、不便に感じることもあります。この制度については周囲からよく尋ねられるので、関心のある人が多いと感じています。



日本ユニシス  
SW&サービス本部  
官公庁ソリューション  
統括プロジェクト  
三宅 ひろみ